

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2015.11

No.112

会報

目次

■ 平成 28 年度（第 38 回）通常総会のご案内	1
■ 第 5 回富澤基金贈呈式のご案内	1
■ 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会 合同大会（BMB2015）開催のお知らせ（その 3）	2
■ BMB2015 両学会共同企画 ランチョンセミナー 研究者のライフイベントを考える―目指すべき制度改正と環境改善―	6
■ キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー 2015 ―本当の PI になるために―	6
■ キャリアパス委員会報告	7
■ キャリアパス対談 第 8 回：胡桃坂仁志×須藤裕子	8
■ 新しい会員種別（シニア会員・次世代教育会員）のご案内	10
■ 生命科学教育（高校生へのアウトリーチ活動）について	11
■ 第 6 回（2016 年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ	11
■ 第 5 回（2017 年）日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ	13
■ 国際会議支援システム利用について	14
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	15
■ 各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ ○千里ライフサイエンス国際シンポジウム 2016 Senri Life Science International Symposium on “Frontiers in Structural Biology ---X-ray Free Electron Laser and Drug Discovery”	16
■ 第 19 期役員・幹事・各委員会名簿	17
■ 賛助会員芳名	18



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<http://www.mbsj.jp/>

BMB 2015

BIOCHEMISTRY AND MOLECULAR BIOLOGY

第38回 日本分子生物学会年会 合同大会
第88回 日本生化学会大会



2015年12月1日(火)~4日(金)

神戸ポートアイランド

(神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場)

第38回 日本分子生物学会年会
年会長 影山 龍一郎 (京都大学 ウイルス研究所)

第88回 日本生化学会大会
会 頭 遠藤 斗志也 (京都産業大学 総合生命科学部)

演題登録受付期間
2015年7月1日(水)-15日(水)

事前参加登録期間
2015年7月1日(水)-10月30日(金)

BMB2015運営事務局

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原2-14-14 新大阪グランドビル6F
株式会社 エー・イー企画 大阪オフィス内

Tel: 06-6350-7163 Fax: 06-6350-7164

e-mail: bmb2015@aeplan.co.jp

平成 28 年度（第 38 回）通常総会のご案内

平成 27 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 荒木 弘之

以下の要領で第 38 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

例年同様に“開かれた”総会を目指し、神戸国際展示場に特設会場を設置して開催いたします。本年は年会(BMB2015)全体プログラムの都合上、ポスター討論の時間帯と一部重なっての開催となりますが、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、総会案内通知および出欠はがき（委任状）は、新年度の会費請求書にも同封して発送（10 月下旬）しています。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状をご提出くださるようお願いいたします。

記

日 時：平成 27 年 12 月 2 日(水) 18:15～19:15

〈総会終了後、第 5 回富澤基金贈呈式が行われます〉

会 場：神戸国際展示場 2 号館 1 階（ポスター・展示会場 3）特設会場

〈総会当日、特設会場を設けます〉

- 予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）
2) 27 年度（2015 年度）決算承認の件
3) 28 年度（2016 年度）活動予算書承認の件
4) その他

※総会会場にて軽食（サンドウィッチ・ジュース）をご用意いたします。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

※総会出欠票はがき（委任状）は、本会報ならびに新年度会費請求書の両方に同封しておりますので、いずれかでご返送ください。

第 5 回富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 5 回（2015 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長 荒木 弘之
基金運営委員会委員長 山本 正幸

日 時：平成 27 年 12 月 2 日(水) 19:15（総会終了後）～19:45 予定

会 場：神戸国際展示場 2 号館 1 階（ポスター・展示会場 3）特設会場

第 5 回助成者：

小原 圭介（北海道大学大学院薬学研究院）

進藤 麻子（名古屋大学大学院理学研究科）

丹羽 伸介（東北大学学際科学フロンティア研究所 / 申請時の所属は Stanford University）

宮腰 昌利（秋田県立大学生物資源科学部 / 申請時の所属は Institute for Molecular Infection Biology, University of Würzburg）

村山 泰斗（東京工業大学大学院生命理工学研究科 / 申請時の所属は Cancer Research UK）



第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会 合同大会 (BMB2015) 開催のお知らせ (その 3)

会 期：2015 年 12 月 1 日(火)～ 4 日(金) (4 日間)
会 場：神戸ポートアイランド (神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場、神戸国際展示場、
神戸商工会議所)
大 会 長：第 38 回日本分子生物学会年会 年会長 影山龍一郎 (京都大学)
第 88 回日本生化学会大会 会 頭 遠藤斗志也 (京都産業大学)
大会事務局連絡先：BMB2015 運営事務局 (㈱エー・イー企画 大阪オフィス内)
〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 2-14-14 新大阪グランドビル 6F
Tel：06-6350-7163 Fax：06-6350-7164 E-mail：bmb2015@aeplan.co.jp
合同大会ホームページ：<http://www.aeplan.co.jp/bmb2015>
合同大会 Facebook：<https://www.facebook.com/bmb2015>

※大会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

プレナリーレクチャー
パイオニアズレクチャー
シンポジウム
ワークショップ
一般演題 (口頭発表、ポスター)
Late-breaking Abstracts ポスター
フォーラム
創薬シンポジウム「革新的な構想の創出と実現に向けて」
CSHA session: Metabolism, cancer and diseases
ガチ議論
BMB2015 研究倫理フォーラム
BMB2015 両学会共同企画
キャリアパス委員会企画
市民公開講座
高校生研究発表
ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)
使ってみようバイオデータベース—つながるデータ、広がる世界 (BioDB)
ランチョンセミナー
テクニカルワークショップ
機器・試薬・書籍等附設展示会

【参加登録に関するご案内】

○参加登録手続きについて

事前参加登録は 10 月 30 日(金)に締め切りました。以後の参加登録受付は大会当日に会場で行います。なお、オンライン上で登録を行った場合でも、11 月 4 日(木)までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効となります。当日参加登録を行ってください。

事前参加登録者には 11 月初旬、参加章 (ネームカード) を送付いたしますので、大会当日は参加章を着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。参加章を着用していない方の入場は固くお断りいたします (12 月 4 日(金)市民公開講座を除く)。

○参加登録受付窓口

	場 所	時 間	内 容
第 1 受付	神戸国際展示場 2号館 1階 ホワイエ	12/1～3 8:00～17:30 ※12/4は第2受付のみとなります。 ご注意ください。	当日参加登録・総合案内 学会入会（学会事務局デスク）・ 宿泊案内（トラベルデスク）
第 2 受付	神戸ポートピアホテル 本館地下1階 ホワイエ	12/1～4 8:00～16:15 ※開設時間は16:15までです。 12/1～3の16:15以降は第1 受付にお越しください。	12/1～3: 当日参加登録のみ 12/4: 総合案内・学会入会も対応可

○当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
11,500円（不課税）	6,500円（不課税）	14,500円（税込） ※プログラム含まず	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※日本分子生物学会のシニア会員、次世代教育会員は、大会事務局にお問い合わせください。

（Tel：06-6350-7163、E-mail:bmb2015@aeplan.co.jp）

【オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリ】

○プログラム検索・要旨閲覧システムは、オンラインとオフライン（アプリ（iOS、Android））で閲覧可能です。参加者と演者間でメッセージ送信できる「プライベートメッセージ機能」等、充実した機能を取り揃えております。11月16日(月)に公開予定です。

※WEBシステム・アプリはフィーチャーフォン（ガラケー）には対応していません。ご了承ください。

○大会ホームページの「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」にアクセスしてください。また、アプリはApp Store、Google Playよりダウンロードしてください（無料）。

アプリケーション名：BMB2015

検索ワード：bmb2015

「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」へのアクセスはこちらから

大会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/bmb2015/>

※2015年11月16日(月)より公開予定。

○事前参加登録者には、オンライン要旨閲覧システムにログインするためのIDとパスワードを、大会事務局よりメール、および参加章に印字してお送りいたします。

○事前参加未登録者は、ログインなしに、プログラム検索のみ利用可能です。ただし要旨の閲覧・ダウンロード、スケジュール登録はできません。大会会場で当日参加登録を行った方には、その場でログイン用のIDとパスワードをお渡しします。

○神戸国際展示場1号館～3号館のポスター展示会場に無線LANをご用意いたしますので、ご自身のPCを用いてインターネットをご利用ください。

※上記以外の場所ではご利用になれませんので、ご注意ください。

○大会へ参加しない方で要旨閲覧のみご希望の方は、BMB2015運営事務局までメールにてお申し込みください（bmb2015@aeplan.co.jp）。

【Late-breaking Abstracts について】

本大会では最新の研究成果をもとに議論を深めたいと考えておりますので、Late-breaking Abstracts ポスター発表を行います。一般演題とは異なりプログラム集には掲載されておりませんが、オンライン要旨閲覧システムでご覧いただくことができます。

【ランチョンセミナー事前予約の実施について】

ランチョンセミナーの参加方法はこれまで大会当日の整理券配布のみでしたが、今回は当日早朝の混雑を避けるために、会期前に事前予約を受け付けることにいたしました。

なお、事前予約を行っていただける対象者は、事前参加登録を行った方に限られます。ランチョンセミナー事前予約の実施時期は11月初旬～中旬を予定しております。事前予約の方法等については、ホームページまたは事前参加登録者へのメール配信にてご案内いたします。

※若干数ですが当日整理券もご用意いたします。

【日程表（予定）】

BMB2015 日程表

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月1日 (火)			シンポジウム/ ワークショップ/ 一般口頭発表 9:00-11:30		プレナリーレク チャー/バイオ ニアズレク チャー 11:45-12:30	ランチョンセミナー 12:45-13:45 高学会共同企画 12:40-13:45		ワークショップ/一般口頭発表 14:00-16:30					フォーラム 18:45-20:15 BMB2015 研究倫理フォーラム 18:45-20:45	
	貼付	機器・試薬・書籍展示 NBRP展示/BioDB展示 10:00-18:45										ポスター発表・討論 16:45-18:45	撤去	
12月2日 (水)			シンポジウム/ ワークショップ/ 一般口頭発表 9:00-11:30		プレナリーレク チャー/バイオ ニアズレク チャー 11:45-12:30	ランチョンセミナー 12:45-13:45 分子生物学会 キャリアパス委員会企画 12:40-13:45		ワークショップ/一般口頭発表 14:00-16:30 創業シンポジウム 14:00-16:30					フォーラム 18:45-20:15	
	貼付	機器・試薬・書籍展示 NBRP展示/BioDB展示 10:00-18:45										ポスター発表・討論 16:45-18:45 高校生研究発表	撤去	分子生物学会総会・ 高澤基金贈呈式 18:15-19:45
12月3日 (木)			シンポジウム/ ワークショップ/ 一般口頭発表 9:00-11:30		プレナリーレク チャー/バイオ ニアズレク チャー 11:45-12:30	ランチョンセミナー 12:45-13:45		ワークショップ/一般口頭発表 14:00-16:30 生化学会 受賞講演 14:00-17:10					フォーラム 18:45-20:15 ガチ議論 18:45-20:45	
	貼付	機器・試薬・書籍展示 NBRP展示/BioDB展示 10:00-18:45										ポスター発表・討論 16:45-18:45	撤去	
12月4日 (金)			シンポジウム/ ワークショップ/ 一般口頭発表 9:00-11:30		一般口頭発表 11:45-12:30		ワークショップ/一般口頭発表 14:00-16:30 CSHAセッション 14:00-16:30						市民公開講座 16:45-18:45	

※あくまで2015年9月時点での予定であり、今後変更される場合があります。

BMB2015 両学会共同企画 ランチョンセミナー

研究者のライフイベントを考える — 目指すべき制度改正と環境改善 —

日 時：2015年12月1日(火) 12:40～13:45
会 場：神戸国際会議場3階 国際会議室(第15会場)
司 会：井関 祥子(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)

●講 演 清水 美和(日本学術振興会人材育成事業部
研究者養成課 課長代理)

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション
日本分子生物学会キャリアパス委員
岩崎 渉(東大・理)、中川真一(理研)、柳田素子
(京大・医)
日本生化学会男女共同参画推進委員
澤崎達也(愛媛大・工)、柴沼質子(昭和大・薬)、
木村洋子(静岡大・農)

※参加者の皆様にはご自身のスマートフォン・タブレット
端末等から専用サイトへアクセスしていただき、
ご意見を会場のスクリーンにリアルタイム表示する
「ケータイアナライズシステム」を導入します。

※ランチョンセミナーの事前予約ならびに当日の整理券配
布についてはBMB2015ウェブサイトよりご確認ください。

2010年に開催した両学会による男女共同参画企画から5年、わたしたち研究者を取り巻く制度や環境はどのように変わってきたでしょうか? 女性研究者の支援制度は、いくつかの具体的な取り組みによって進展がみられた点もあります。一方で、若手研究者のライフイベントに対する制度や環境には大きな変化がみられません。

そこで、分子生物学会キャリアパス委員会と生化学会男女共同参画推進委員会では、BMB2015両学会共同企画の有意義なディスカッションにつなげることができればと「ライフイベントにあたっての問題点」に関する事前アンケートを実施しました。

集計結果より、ライフイベントにはどの年齢層でも直面しうること、そして特定の性別や職階にかぎったことではないという実態が浮かび上がってきました。ライフイベントを当事者の個人的問題として捉えるのではなく、研究環境全体の問題として受け入れて乗り越えることが、男女共同参画へとつながることは間違いありません。

今回のランチョンセミナーでは、制度の問題、職場の問題、心身の問題、家族の問題などの中で数多く寄せられた『学振制度』と『研究環境』をメインテーマに、わたしたちが目指すべき方向性を会場のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー2015

— 本当のPIになるために —

日 時：2015年12月2日(水) 12:40～13:45
会 場：神戸国際会議場3階 国際会議室(第15会場)
司 会：石井 優(大阪大学大学院医学系研究科)

●講 演 仲野 徹(大阪大学大学院生命機能研究科 研究科長)
「目指せPI! なりたい自分になるために
— テニユアトラック運営の経験と提言 —」

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション
with キャリアパス委員
大谷直子(理科大・理工)、胡桃坂仁志(早大・先進理工)、
小林武彦(委員長/東大・分生研)、須藤裕子(東レ・
先端融合研)、東山哲也(名大・ITbM)

※参加者の皆様にはご自身のスマートフォン・タブレット
端末等から専用サイトへアクセスしていただき、設問へ

のご回答やご意見を会場のスクリーンにリアルタイム表示する「ケータイアナライズシステム」を導入します。

※ランチョンセミナーの事前予約ならびに当日の整理券配布についてはBMB2015ウェブサイトよりご確認ください。

「研究する限りは、いつかはPI(独立研究者)になりたい」という方も多いことでしょう。しかし、どうやってなればよいのでしょうか。もちろん良い研究をすることが大切ですが、それだけではないみたいです。近年、若手研究者の独立を促すポスト(テニユアトラックなど)が数多く登場しましたが、一方で従来の講座制のポストも残されています。どうするのが「本当のPI」になる近道なのでしょう?

本セミナーでは、これまでに多数の若手独立ポストの制度設計から人選に関わって来られた大阪大学の仲野徹先生をお招きして、PIになるための効率的なキャリアパスについて、参加者の皆さんと共に議論したいと思います。

キャリアパス委員会報告

1. 第38回日本分子生物学会年会（BMB2015）に関連して

i) 演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題登録ページに属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。現在、結果の集計を進めております。分析結果はポスターにまとめ、年会会場に掲示し、学会HPでご報告いたします。

ii) 年会託児室の利用について

分子生物学会の年会に初めて託児室が設置された2001年以来、利用者の要望にあわせて、サービスの向上に取り組んでいます。昨年試験的に実施したお子さま用お弁当予約受付が好評でしたので、今年も行うことになりました。託児室利用・お子さま用お弁当の申込締切は2015年11月20日(金)です。詳しくはBMB2015のHPをご覧ください。利用者の方は、利用者アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

2. アンケートの実施

i) ポスドクアンケート

2015年7月6日～21日の期間、現在ポスドク（再任回数に限られた任期付助教、特任助教を含む）のポジションにある会員を対象に意識調査アンケートを実施し、約420名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。調査結果は学会ホームページに掲載し、年会のキャリアパス委員会企画ランチョンセミナーの際にも取り上げるほか、生物科学学会連合、日本学術会議、文部科学省を含む行政等への提供資料に使わせていただきます。

ii) ライフイベントについてのアンケート

2015年7月14日～31日の期間、日本生化学会男女共同参画推進委員会と協力して「BMB2015両学会共同企画ランチョンセミナー事前アンケート～ライフイベントで困っていることありませんか?～」を実施し、約310名の方から回答をいただきま

した。この調査結果をもとに本企画の内容を決定し、準備を進めております。調査結果は学会ホームページに掲載いたします。

3. 男女共同参画学協会連絡会報告

「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」(8月6日～8日)について

このイベントは、国立女性教育会館が主催となり、女子中高生が科学技術の世界の楽しさや活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うことを目的として開催されており、男女共同参画学協会連絡会もその企画・運営に協力しています。今年も、全国から113名の女子中高生、21名の保護者・教員が参加しました。

分子生物学会は毎年、「実験・実習」プログラムの講師やポスター発表、理系進路に進んだ先輩と交流するキャリア相談プログラムへの参加などを通じてイベントへ協力しております。今年も昨年に引き続き全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。

〈実験・実習〉

- ・「ゲームとピースミニストラップ作りで遺伝子発現を体験します」：横倉隆和（沖縄科学技術大学院大学）
- ・「ウイルスを知ろうーウイルス粒子模型の作製」：下池貴志（国立感染症研究所）

〈ポスター・キャリア相談ブース〉

- ・ポスター：「細胞の変化と遺伝子発現やゲノム変化の組み合わせについて」：田邊思帆里（国立医薬品食品衛生研究所）
- ・キャリア相談ブース：佐藤綾（京都大学）

募集の際には多くのお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今後も中高生へ分子生物学の魅力を伝え、理系進路選択の支援を続けていきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

キャリアパス委員会 委員長 小林 武彦

キャリアパス対談 第8回：胡桃坂仁志×須藤裕子

委員：胡桃坂仁志（早大・先進理工）、
須藤裕子（東レ・先端融合研）

日時：2015年8月21日（金） 15：00～17：45

場所：TWIns 2階 共有会議室 B

最終回を迎えた今回は、ミュージシャンを志して東京の大学へ進学した（と言い張る）胡桃坂委員と、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなどの分野で世界をリードする東レの須藤委員に対談していただきました。キャリアを積むうえで、おふたりはどこに軸足を置いて、どんなことを大切にしてきたのでしょうか？

キャリアパス委員会は、若手教育問題ワーキンググループと男女共同参画委員会の活動を引き継いだ委員会として、年会でのランチョンセミナーや委員による対談などで様々なテーマを取り上げてきました。本委員会の活動が博士人材のキャリアパスを拓くひとつのきっかけとなることを信じています。

（第19期キャリアパス委員会 委員長 小林武彦）

【胡桃坂】 今日、企業とアカデミアの双方でキャリアを積み、本委員会に産業界から唯一参加されている須藤さんとの対談ですから、特に私たちアカデミアの研究者が実はあまりよく知らない、企業で研究するというを中心にお話できればと考えています。須藤さん、よろしくをお願いします。

【須藤】 胡桃坂先生、こちらこそどうぞよろしく申し上げます。

私が在籍する東レ株式会社は、有機合成化学、高分子化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、これらのコア技術を発展させながら、成長市場へ向けてさまざまな先端材料を開発している企業です。そのなかで、バイオとナノの分野における基礎研究の推進と技術融合を目的とする先端融合研究所で研究に従事しています。

もともと研究職に興味のあった私は、サイエンスを続けるには英語をやらなければいけないという気持ち、そして若さゆえの勢いもあり（笑）、アメリカにて大学学部生時代からポスドクまで10年間程を過ごしました。アメリカのアカデミアでは、様々な背景の人達と幅広い研究に従事することで実に多くを学びましたが、ポスド



クの頃からもう少し世の中に身近な研究がしたい、社会に役立つことが感じられる研究がしたい、と思うようになり、企業への道を選びました。

【胡桃坂】 須藤さんは留学への決断がかなり早かったんですね。

マスターで留学するよりもドクターを持ってポスドクとして行く方が簡単なんじゃないか、薬科大の学生だった私はそう考えました。しかし、いざアメリカへ留学してみると、ネイティブの学生たちがどうやってポジションを探しているのかがとても参考になったんです。それに、英語が上達してくるにつれ自然とオープンマインドでドアをノックできるようになり、就職活動先が世界中のラボに広がったような気になりました。

早稲田の電気・情報生命工学科は、電気の先生方が非常に柔軟なお考えなので、インフラである電気に生物や情報を入れることで、境界分野で活躍できる人材育成に取り組んできました。それぞれの研究テーマから得られた理論や技術を組み合わせることで融合領域へ展開する、まさにオープンマインドがもたらす化学反応でしょう。PI以外のパーマnent職が減っている生物系のアウトプットを考えれば、どうも日本のアカデミアは逆行しているように思えてなりません。

【須藤】 そうですね。アメリカではPIとポスドクや院生以外にサイエンティストやテクニシャンというポジションがあり、しっかりとした分業制が成り立っています。多様性という言葉でも表せるかもしれませんが、個々のポジションを担うスタッフを置くことで研究を推進させていると思います。

一方で企業の研究を考えると、アカデミアとは研究に対してのマインドに少し違いがあると思います。企業では、いかに成果を社会に還元するかが求められますので、アカデミアでTLOが頑張っているように、製品化までに必要な知的財産をどう確保するかなど、特許に関する知識や経験が重要です。また、製品についての安全性の確保に加え、良識ある研究者では思いも寄らないこと、社会への還元とはまったく別の用途に使われてしまうリスクを認識することも求められます。

ですから、企業はこのような研究マインドを社員が早





めに身に付けることを期待します。そのために入社後の育成サポートはかなり充実しており、中堅になるまでにいろいろな仕事を任せられるのが当然ですから、企業への転職を考えている方はタイミングを誤ることのないように注意するのがいいでしょうね。

【胡桃坂】 人材育成については、産業界のほうがかなり進んでいるのを実感します。あるレベルにまで育った人材を登用しているからなのか、企業で順調にいてる方は、私のように余計なことは言わないし、何より感じがいいですよ（笑）。

【須藤】 弊社の場合、人材を育てることがマネージャー職に求められる特に重要なファクターですが、上下関係が比較的薄いアカデミアにおいて独立したサイエンティストを養成することとは基本的な考え方が異なるかもしれません。ただ、アカデミアでも企業でも新人にとって、教えてもらわないとわからないことは確実に存在しますので、人材育成に関するある程度組織的な取り組みや機会は必要であると思います。

特にアカデミアにおいて自立したサイエンティストを目指すには、まず論文を上手に書くための技術を身に付け発信力を獲得しなければなりません。論文であれば、公開されている質の高いものを参考にスキルアップができると思います。一方で、研究費などの申請書の書き方はPIから教わる部分が多いと思います。日本語でも英語でも、論理的に正しい文章を書くということは非常に難しいことであり、私も日頃から分かり易い良い文章を書くよう心掛けてはいますが、日々苦心しています。

【胡桃坂】 おっしゃるとおりです。PIを目指す目指さないに関わらず、安定的な環境で勉強する時期がないとなかなか厳しいものがありますよね。テクニカルライティングは日本語も英語もあまり変わらないですから、余計なことは盛らず、重要なことが確実に伝わるよう情報を整理し、それをロジカルに書くトレーニングの繰り返しですね。

論文が出たりするとスタッフや学生が目を見て喜びます。そういう様子を見ると私も本当に嬉しいですし、素晴らしい光景だと思います。高いレベルを目指すのはきついですけど、ラボの仲間がいるから楽しめるんですよ。だからこそ、他愛のない日常的なコミュニケーションを大切にしたいんです。

【須藤】 そうですね、成功している方はコミュニケーションが上手ですよ。

忙しい日々の中でも、他人との関わりを大事にする努力を怠らないという証にほかなりません。それに、社会に目を向けて世の中の動きを絶えず意識することが大事だと思います。絶好の機会は日常という枠組みのすぐ外にあるかもしれないですから、関係ないと思えることも見過ごさないようアンテナの感度を上げておくことを心がけています。

研究者何人かで議論が始まれば、大抵の場合喧々譁々となりますからね。そういうものが日常にあふれている分野ですし、あえて寄り道してみる勇氣を持っていいでしょう。アカデミアでも企業でも、研究活動は長い道のりになることが多いですが、自分自身の研究が社会に役立つのだと思うことが研究推進のための最大のモチベーションです。

【胡桃坂】 製品化されると産業が生まれて、そこに雇用が発生する。生物系の業界全体に波及することだってありますからね。

あえて現実に目を向ければ、研究テーマが実を結ぶのには5年～10年かかると言われますが、ひとつのことに粘り強く取り組める人、生涯勉強を続けられる知識欲求の強い人、夢を現実に、カタチにしたいという情熱をもっている人、博士人材とはこういう集団なんです。

今回の対談を通じて、企業の求める人材、求められるマインドやスキルについてあらためて考えることができました。またそれは同時に、人材の育成こそがアカデミアにおいても大変重要だと再認識する機会になりました。私たちPIは、博士人材の育成から目を背けることなど許されるはずがないわけです。これまで以上に厳しく、テクニカルライティングを指導していきますよ。

【須藤】 胡桃坂先生、今日はありがとうございました。



～日本分子生物学会キャリアパス委員会一委員～
小林武彦（委員長）、石井 優、井関祥子、岩崎 渉、大谷直子、小野弥子、胡桃坂仁志、須藤裕子、中川真一、東山哲也、柳田素子

新しい会員種別（シニア会員・次世代教育会員）のご案内

2015年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

昨年の通常総会において承認された新しい会員種別（シニア会員・次世代教育会員）についてご案内いたします。
手続きの詳細は学会ホームページをご覧ください。

■シニア会員

以下の条件に該当する正会員は、ご本人による申請が受理された次年度よりシニア会員となります（学会の会計年度は10月1日～翌年9月30日です）。

◎シニア会員の条件

- 1) 申請の時点で65歳以上かつ会員歴通算20年以上の正会員であること。
- 2) 常勤職に就いていないこと。
- 3) 申請する年度までの会費が完納されていること。

◎シニア会員になると

- 1) 年度会費が3,000円となります。
- 2) 年會に無料で参加できます。
- 3) 学会誌「Genes to Cells」（オンラインジャーナル）を引き続き無料で閲覧できます。
- 4) 総会での議決権は継続されます。
- 5) 理事選挙の選挙権も継続されます。

■次世代教育会員

次世代教育会員は、小・中・高等学校の教員またはこれに準ずる方を対象としています。高等専門学校の教員の方も対象に含まれます。

- 1) 新規入会の際には入会金1,000円を申し受けます。
- 2) 年度会費は正会員と同額（6,500円）です。
- 3) 年會に無料で参加できます。
- 4) 年會で一般演題の発表ができます。
- 5) 学会誌「Genes to Cells」（オンラインジャーナル）を無料で閲覧できます。
- 6) 総会での議決権があります。
- 7) 理事選挙の選挙権と被選挙権があります。

会員種別	入会金	年度会費	年會参加費	備 考
正 会 員	1,000円	6,500円	正会員価格	
学 生 会 員	1,000円	3,000円	学生会員価格	学生の方
シニア会員	—	3,000円	無 料	65歳以上の常勤職に就いていない会員歴通算20年以上の方
次世代教育会員	1,000円	6,500円	無 料	小・中・高等学校の教員またはこれに準ずる方

※正会員として年會事前登録を完了した後に、シニア会員や次世代教育会員へ変更した場合、年會参加費の返金はできませんのでご注意ください。

生命科学教育（高校生へのアウトリーチ活動）について

高校生物の教科書が大幅に改訂され、分子生物学を1つの大きな柱とした内容の授業が開始したことを受け、分子生物学会では、日本の未来を背負う若者への教育を念頭にアウトリーチ活動の強化に取り組んでいます。

そのひとつが、高校教師の方々と本学会が分子生物学に関する新しい情報の共有を目指した『高校などへの講師派遣』で、講師候補として163名（2015年10月1日現在）の方に登録して頂き、これまでにのべ29回（2015年9月現在）の出前講義を実施してきました。ご担当された講師の方々にはこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本学会による講師の派遣は、公立・私学を問わず（SSHなど国から予算を得ているところ以外には）“無料”を原則におこなっていますので、交通費は会員個人のご負担となりますが、勤務地や住所地の近傍など交通費が最少になる地域からマッチングするようにしています。ただし、講師の登録が少ない地域や専門分野がみられる状況にありますので、会員の皆様には講師派遣へのご理解とご協力をお願いします。講師としてお申し出を頂ける方は、事務局までご連絡ください。

また、今年で4回目となる『年会における高校生発表』を年会（BMB2015）二日目の12月2日（水）16時45分から神戸国際展示場のポスター展示会場でおこないます。日々繰り返し実験して得た研究成果を発表する機会を提供し、高校生ご自身の可能性を感じてもらいこの取り組みには、毎年多くの年会参加者が集まり、会場は熱気と活気に包まれています。興味のある方は未来の分子生物学を担う高校生との交流を図り、激励の言葉をかけて頂ければ幸いです。

本学会では、高校生等と日頃から接している教師の方々を対象とした『次世代教育会員』という会員種別を新設しました。正会員と同額の年会費で年会に無料参加できますので、小・中・高等学校の教師の方、あるいはお知り合いの方がいらっしゃいましたら是非お知らせください。

本事業の具体的な活動については以下のURLを参照してください。

【日本分子生物学会—生命科学教育】

<http://www.mbsj.jp/activity/education.html>

第19期理事（生命科学教育担当）篠原 彰

第6回（2016年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

本学会は、2010年に富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を立ち上げ、2011年度より若手研究助成事業を開始いたしました。

当基金の目的とするところは、分子生物学、あるいはさらに広く生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約のために十分に力を発揮できていない若手研究者に、用途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることです。用途を限らない本助成の特色を活用した、創意に富んだ研究推進提案を歓迎いたします。

2016年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従って奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

第19期理事長 荒木 弘之

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

第2期基金運営委員会 委員長 山本 正幸

【応募要項】

1. 研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

2. 助成金額

助成金額は、一人300万円。年度ごとの助成人数は5名。再度の応募を妨げません。

（2011年から2020年の10年間で総額1億5000万円を助成予定）

3. 応募資格

(1) 分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る39歳以下（*1976年1月1日以降に生まれた人）

の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は39歳を超えていても応募を受け付けます。

- (2) 日本分子生物学会会員・非会員は問いません。
- (3) 申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

4. 研究助成金の使途、ならびに会計処理

- (1) 研究推進に関係することであれば、使途は限定しません（例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可）。
- (2) 本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います（50万円を超える、250万円につき10%の源泉徴収（※+若干の復興特別所得税が加算されます）を行います。分子生物学会が支払い調書を発行します。*海外からの申請は下記にご留意ください）。

*海外に長く滞在の場合、ビザの種類にかかわらず日本国税法区分では「非居住者の一時所得扱い」となります。この場合、いずれの国においても、助成金300万円のうち50万円を超える250万円に対して20%を源泉徴収（※+若干の復興特別所得税が加算されます）しなければなりませんので、ご留意ください。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

- (3) 助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

5. 応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

- (1) 最初に、第6回（2016年）日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。
- (2) 申請書（電子データ/PDFファイル形式で最大10ページ以内に収めてください）と論文別刷（3篇以内の電子データ/PDFファイル）を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbsj.jpへメール送信してください。

(1)(2)の手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに2点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、(1)(2)の手続きは2日以内を目安に完了してください。（申請書、論文

別刷ともに、提出いただくのは電子データのみです。オリジナルの郵送は必要ありません。）

*注意 ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6. 応募受付期間と締切日時

●応募受付期間：2016年1月13日(水)10:00
～2月10日(水)17:00

●締切日時：2016年2月10日(水)17:00
(時間厳守)

7. 選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。一次書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

ヒアリングは2016年5月を予定しており、応募者本人がヒアリングに出席することを原則としますのでご留意ください。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
第2期基金運営委員会（任期：2015.1.1～2017.12.31）

委員：山本正幸（委員長/基生研）、小原雄治（副委員長/遺伝研）、上村 匡（京大）、大杉美穂（東大）、近藤 滋（阪大）、塩見美喜子（東大）、東山哲也（名大）、荒木弘之（職指定委員/遺伝研）

8. 研究助成金の交付

2016年6月までに指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められている取扱い規定、その手続きにより交付します。

9. 贈呈式

第6回研究助成対象者については、原則として、2016年12月の第39回日本分子生物学会年会（横浜）における富澤基金贈呈式（総会）への出席を要請します。

10. 研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」(Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist) から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行物の別刷等を1部、本学会事務局へ提出してください。

11. 研究成果および会計報告

- (1) 本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の5月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会あてに提出してください。様式は問いません（一時所得扱いの受領者は、会計報告に際して、領収書の提出は不要です。用途の一覧を提出ください。研究成果報告書には、論文発表・学会発表等の情報も含めて作成ください）。
- (2) 本助成金受領者は、(1)の研究成果と会計報告を提出した年に開催される年会において、研究成果発表（会期中、専用コーナーでのポスター掲示）を行うものとします。
- (3) 本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行為があった場合には、助成金の返還を求めることがあります。

12. 本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考えくださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委員会までお申し出ください。

*その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。日本分子生物学会が責任を持って対応・運用いたします。

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4階

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

基金運営委員会

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: kenkyujosei@mbsj.jp

第5回（2017年）日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ

日本分子生物学会では、昨年に続き、2017年（2017年1月～12月）に開催計画のある国際会議に対しまして支援事業（開催補助金の助成）を行いますので、ここにお知らせいたします。

科学のグローバル化が進む一方で、国際会議を通しての情報の交換は科学の大きな必須手段の1つとなっています。しかし、日本で開催される質の高い国際会議の数は増えていない状況があります。また、関連分野の最新の研究に若い時から接することは優秀な研究者を育てる上で要の1つと考えられます。本支援は、日本（あるいはアジア）発の originality の高い国際会議を育て、若手研究者をサポートすること、日本発の研究を世界に向けて発信する場を設けることを目的として立ち上げられました。

本国際会議支援（開催補助金の助成）を希望される方は、下記の要項に従って、奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 荒木 弘之
国際会議支援・選考委員会 委員長 篠原 彰

■募集要件

1. テーマ：分子生物学の分野ならどのような分野でも可一新しい領域、外国では見受けられないユニークなテーマが望ましい。
2. 開催規模：参加人数は50名以上200名程度までとし、

そのうち外国からの参加者が少なくとも20%程度いること、さらに口頭発表者の中で外国人が3割以上を占めることが望ましい。

3. 開催の形式：

- 1) 分子生物学会会員が主催者あるいは共同主催者であること。教育・研究機関の主催、研究費主催のものは除きます。（組織委員（国内）については、できるだけ本学会への入会を推奨します）
- 2) 共催：他の団体との共催は可とするが、その場合、参加費に関して分子生物学会会員価格（特に学生会員を考慮されたい）が設定されていることが望ましい。

4. 留意事項：

- 1) できる限り、国内の若手研究者の口頭発表の機会を作ることが望ましい。
- 2) 本学会年会のサテライト会議（年会会期前後または近い時期での開催。開催場所は問わない。）とすることが望まれるが、他の時期・場所での開催も可能である。
- 3) 会議開催に際しては、分子生物学会が用意している支援システム（JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを長期契約のもとに割安価格で使用）、①基本システム代金：23万円（事前参加登録受付・演題投稿受付・カード決済等の基本システム設定）、②オプション/メイン HP 代金：25万円（全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理12ヶ月・更新メンテナンス12ヶ月）、③オプション/オンライン査読システム：8万円、④オプションその

他、のうち基本システム①を必ず使用することを応募条件とします。

- 4) 支援が決定した後は、主催者は各種の報告書・広報ポスター・国際会議 HP 等に本学会からの支援を受けて開催されることを、表示する義務を負うものとしします。
- 5) 採択された場合には、会議終了後、開催責任者にミーティングレポートを執筆いただきます。学会誌「Genes to Cells」に掲載しますことをご確認ください。
- 6) 残金が出た場合、補助金の返還を求めることがあります。

■開催補助金と件数

援助する金額は、一件あたり 200 万円～300 万円。年間 2～3 件。開催期間・参加予定人数によって金額の変動あり。学術振興会の国際会議等の大型支援を助成された場合は多少の減額あり。

(補助金の使用用途は限定せず自由度を持つものとしします。他経費で補えないものが望ましい。ただし国際会議終了後、本学会への会計報告(収支決算書概要)提出の義務を有します。また、分子生物学会から支援を受けたことを、HP、要旨集などに明記いただきます。)

■応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロード

ドして使用してください。

所定の申請書に、国際会議の目的、形態、予定講演者、おおよその予算規模と使用用途等を記載し、学会へ提出してください。

■申請書送付先

〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会 国際会議支援・選考委員会 御中

TEL: 03-3556-9600

E-mail: info@mbsj.jp

■締切期日 2016 年 2 月 29 日(月) (必着)

■スケジュール (開催補助金の交付)

○2016 年 2 月 29 日: 応募締切

○2016 年 3 月～4 月: 選考

○2016 年 5 月: 補助金の交付 (予定)

■選考

国際会議支援・選考委員会が選考に当たり、理事長承認のもとに決定します。

国際会議支援・選考委員会

篠原 彰 (委員長)、眞貝洋一、杉本亜沙子、田畑哲之、仲野 徹

分子生物学会による、国際会議支援システム

(参加登録～演題受付～カード決済 / Web 運用) 利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム (JTB 西日本による国際会議トータル支援システム / Web 運用) をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれているとおりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局 (分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係り E-mail: info@mbsj.jp) まで E-mail にて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。(一旦、学会を経由してから、JTB 西日本の担当者をご紹介します)

《支援システムの概要》

本学会が JTB 西日本と長期契約を交わしたことによ

り、JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

①基本システム代金: 23 万円 (事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定)

②オプション / メイン HP 代金: 25 万円 (全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月)

③オプション / オンライン査読システム: 8 万円

④オプションその他、が利用できます。(メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTB 西日本の担当者が説明いたします)

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援 (システム利用) を受けたことを当該会議の HP、要旨集などに明記いただきます。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.111 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計 6 部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒 (返信用の宛名を記入しておいて下さい)
- 4) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 相賀裕美子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 塩見 春彦
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○千里ライフサイエンス国際シンポジウム

2016 Senri Life Science International Symposium on
“Frontiers in Structural Biology --X-ray Free Electron
Laser and Drug Discovery”

日 時：平成 28 年 1 月 22 日(金) 10：00～17：00

場 所：千里ライフサイエンスセンタービル 5 階

山村雄一記念ライフホール

コーディネーター：

岩田 想 (京都大学大学院医学研究科 教授)、

月原富武 (兵庫県立大学 特任教授 / 大阪大

学蛋白質研究所 客員教授・名誉教授)

主 催：公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

プログラム：

〈Opening address〉

Tadamitsu Kishimoto (President of Senri Life Science
Foundation)

〈Introduction〉

So Iwata (Kyoto University, Japan)

〈Talk 1〉 “New Frontier in Structural Biology: Free
Electron Laser”

So Iwata (Kyoto University, Japan)

〈Talk 2〉 “Beyond Crystallography: Diffractive Imaging
Using Coherent X-ray Source”

Jianwei (John) Miao (UCLA, USA)

〈Talk 3〉 “GPCR crystallography with X-ray lasers”

Vadim Cherezov (University of Southern California,
USA)

〈Talk 4〉 “Structural and functional studies of bovine
cytochrome oxidase by X-ray free electron laser and
synchrotron radiation X-ray”

Tomitake Tsukihara (University of Hyogo/Osaka

University, Japan)

〈Talk 5〉 “Structural insights into G protein coupled
receptor activation”

Brian Kobilka (Stanford University School of Medicine,
USA)

〈Talk 6〉 “The application of Free Electron Lasers to
biology: a new age of time resolved crystallography”

Gebhard F.X. Schertler (Paul Scherrer Institute/ETH
Zurich, Switzerland)

〈Talk 7〉 “Understanding the Complete GPCR
Superfamily”

Raymond C. Stevens (University of Southern California,
USA)

〈Closing remarks〉

Tomitake Tsukihara (University of Hyogo/Osaka
University, Japan)

使用言語：英語

定 員：200 名

参 加 費：無料

申込要領：氏名、勤務先、所属、〒所在地、電話番号、
Eメールアドレスを明記の上、Eメールで下
記宛お申し込み下さい。件名は「千里ライフ
サイエンス国際シンポジウム J6」として下
さい。

締 切：定員になり次第締め切らせて頂きます。

申 込 先：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財
団 国際シンポジウム J6 係

E-mail：sng@senri-life.or.jp

TEL：06-6873-2001

URL <http://www.senri-life.or.jp/>

〒 560-0082 大阪府豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル 20 階

第 19 期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2015年1月1日～2016年12月31日)

荒木 弘之 (遺伝研)

副理事長

佐々木裕之 (九大・生医研)

塩見美喜子 (東大・理)

理事

一條 秀憲 (東大・薬)

上村 匡 (京大・生命)

大隅 良典 (東工大・フロンティア研究機構)

岡田 清孝 (自然科学研究機構 / 龍谷大・農)

貝淵 弘三 (名大・医)

影山龍一郎 (京大・ウイルス研)

糸 昭苑 (東工大・生命理工)

小林 武彦 (東大・分生研)

小安 重夫 (理研・IMS)

斎藤 通紀 (京大・医)

相賀裕美子 (遺伝研)

塩見 春彦 (慶應大・医)

篠原 彰 (阪大・蛋白研)

白髭 克彦 (東大・分生研)

眞貝 洋一 (理研・和光)

杉本亜砂子 (東北大・生命)

高橋 淑子 (京大・理)

田畑 哲之 (かずさ DNA 研)

長田 重一 (阪大・IFReC)

仲野 徹 (阪大・医 / 生命機能)

林 茂生 (理研・CDB)

深水 昭吉 (筑波大・生命領域学際研究 C)

水島 昇 (東大・医)

山本 正幸 (基生研)

吉田 稔 (理研・和光)

吉村 昭彦 (慶應大・医)

渡邊 嘉典 (東大・分生研)

監事

辻本 賀英 (大阪府立成人病 C)、花岡 文雄 (学習院大・理)

幹事

庶務幹事 深川 竜郎 (阪大・生命機能)、本間美和子 (福島県立医大・医)

会計幹事 水島 昇 (東大・医)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事 金井 正美 (医科歯科大・実験動物センター)、渡邊 嘉典 (東大・分生研)

集会幹事 仲野 徹 (阪大 / 第 38 回年会)、三浦 正幸 (東大 / 第 39 回年会)

第 19 期執行部

荒木理事長、深川庶務幹事、本間庶務幹事、金井広報幹事、渡邊広報幹事

Genes to Cells 編集長

柳田充弘 (沖縄科学技術大学院大学)

賞推薦委員会

相賀裕美子 (委員長)、一條秀憲、貝淵弘三、小安重夫、長田重一

研究助成選考委員会

塩見春彦 (委員長)、大隅良典、影山龍一郎、高橋淑子、林 茂生

国際会議支援・選考委員会

篠原 彰 (委員長)、眞貝洋一、杉本亜砂子、田畑哲之、仲野 徹

キャリアパス委員会

小林武彦 (委員長)、石井 優、井関祥子、岩崎 渉、大谷直子

小野弥子、胡桃坂仁志、須藤裕子、中川真一、東山哲也、柳田素子

研究倫理委員会

白髭克彦 (委員長)、岡田清孝、塩見美喜子、杉本亜砂子

生命科学教育

篠原 彰 (担当理事)

将来計画検討委員会

〈検討中〉

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」 第 2 期 基金運営委員会 (任期:2015年1月1日～2017年12月31日)

山本正幸 (委員長)、小原雄治 (副委員長)、上村 匡、大杉美穂

近藤 滋、塩見美喜子、東山哲也、荒木弘之 (職指定)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2015年10月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社 イノベーション研究所
株式会社エー・イー企画
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究開発本部企画推進グループ
コスモ・バイオ株式会社 開発部
サーモフィッシャーサイエンティフィック ライフテクノロジーズジャパン株式会社
第一三共株式会社 バイオ創薬研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究開発管理グループ
フナコシ株式会社
株式会社ボナック
三菱化学株式会社 経営戦略部門 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

(27社、50音順)

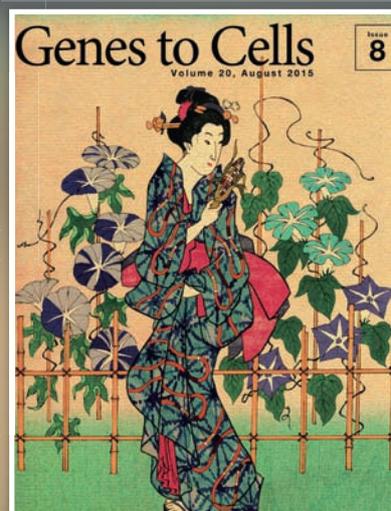
Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida

Frequency: Monthly | Impact Factor: 2.805

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界9,000以上の機関で読まれており、年間224,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。



Genes to Cells 投稿の利点

- ・ わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- ・ 2015年からの完全オンライン化でカラー掲載料がなくなりました
- ・ 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- ・ 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- ・ 出版後6か月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- ・ オープンアクセス希望者はオプションで『Online Open』(有料)を選択できます
- ・ 2012年9月以降の総説は日本分子生物学会のサポートを受け OnlineOpen で公開中

オンライン投稿はこちら

<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2013年・2014年出版 引用数TOP論文 *2015年8月現在

Efficient TALEN construction and evaluation methods for human cell and animal applications (Volume 18, Issue 4)
Sakuma, T; Hosoi, S; Woltjen, K; Suzuki, K; Kashiwagi, K; Wada, H; Ochiai, H; Miyamoto, T; Kawai, N; Sasakura, Y; Matsuura, S; Okada, Y; Kawahara, A; Hayashi, S; Yamamoto, T

Structures of D14 and D14L in the strigolactone and karrikin signaling pathways (Volume 18, Issue 6)
Kagiyama, M; Hirano, Y; Mori, T; Kim, S.Y; Kyojuka, J; Seto, Y; Yamaguchi, S; Hakoshima, T

Efficient identification of TALEN-mediated genome modifications using heteroduplex mobility assays
(Volume 17, Issue 3) Ota, S; Hisano, Y; Muraki, M; Hoshijima, K; Dahlem, T.J. Grunwald, D.J; Okada, Y; Kawahara, A

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。
ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。
日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley カスタマーサービスにて承ります。
Wiley カスタマーサービス: cs-japan@wiley.com



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第112号 (2015年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——荒木 弘之